



下野新聞 認知症カフェ プロジェクト2022

オレンジコラム

第一回

なぜ、認知症の人は 家に帰りたいがるのか

脳科学でわかる、ご本人の思いと接し方

著者：恩蔵絢子 永島徹

発売日：2022年7月上旬予定

定価：1,760円（税込）

発行：中央法規出版



認知症の人の暮らしの 「なぜ…？」を知ろう



なぜ、ご飯を食べたのに、食べていないと言うのだろう？なぜ、自分でしまい忘れたのに、誰かに盗られたと言うのだろう？なぜ、人物がわからなくなるのだろう？なぜ、自分の家にいるのに、家に帰りますと言うのだろうか？なぜ？なぜ？

永島 徹

自宅でも、施設でも、認知症の人の暮らしの中には、ケアする人が、なぜ？と感じて、対応に苦慮することがあります。そして、大抵、なぜ？の理由は、「認知症だから」となりがちです。言動の理解が難しく、困ると何でも、認知症だから…と考えてしまうことが少なくありません。「認知症だから」で終わらせてしまったら、見えないこと、気づけないことがたくさんあります。これまでも、見えなかったこと、気づけなかったことを含め、認知症の人の生活のなぜ？の理由を知りたいと思ったのが、本書が生まれるきっかけです。

脳科学者 恩蔵絢子
先生の解説で、認知症の人の生活の、なぜ？の理由が見えてきました。例えば、娘を自分の妹だと思ってしまう節子さん（仮名）の事例があります。叔母（母の妹）と間違えられた娘さんは、戸惑い、母親の認知症が進んでしまったと不安が増してしまいました。間違えられた家族は、驚きとショックで「何言っているのよ。娘よ」と訂正しようとし、そう言われたご本人も混乱が増すばかりです。

こんな時、なぜ？の理由を知っていたら、そのような悪循環に陥ることなく、互いの気持ちや状況に良い変化が生まれてくるかもしれません。思いに寄り添い、脳科学の視点から伝えられた、「記憶が編集されるしくみ」や「記憶が変わってしまうても恐れる必要はない」ということ」などの解説から、娘を自分の妹と間違えてしまう言動には、目の前の娘さんのことを、自分が面倒を見るべき人であると感ぜられるほど、大事に思っているという母親の思いがあることがわかりました。このことを知ることは、娘さんにとっても少なからず力になるはずです。恩蔵先生は脳科学の視点で私たちの脳の持つ力や可能性についても伝えてくれています。

次回からは、認知症の人の暮らしの、なぜ？の理由を知ること、不安や恐れに目が向いてしまいう今から、よりよく生活していけるための工夫を紹介していきます。



NPO法人 風の詩 理事長
日本認知症ケア学会 理事
ながしま とおる
永島 徹
(認定社会福祉士・認知症ケア専門士)

私たちは「下野新聞認知症カフェプロジェクト」を応援しています。



企画協力

